



つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとに発行しております。

令和3(2021)年 12月21日 発行

発行元

秋田市在宅医療・介護連携センター

TEL 018-827-3636

E-mail renkei-center@acma.or.jp

職種別特集（第5弾）【 看護師 】

在宅医療・介護連携に密に関わっている、訪問看護ステーションで働く看護師 加賀谷純一氏から、訪問看護の仕事や多職種との連携に対する想いを伺いました

**加賀谷 純一氏**

ななかまどの街訪問看護ステーション
趣味:二人の娘の応援(ダンス・バスケット)
座右の銘:好きこそものの上手なれ

「訪問看護をもっと知ってもらいたい」

～早めの段階で声をかけてほしいです！～

今回のインタビュー

星 佳子氏

泉地域包括支援センターリンデンバウム/
秋田県中央地区介護支援専門員協会
趣味:バラの庭作り、土偶巡り、ハイキング
座右の銘:一期一会



訪問看護は医療依存度が高い方だけが利用できると思いませんか。日常の健康管理から、終末期ケアまで幅広く相談に乗ってもらえます。ケアマネジャーの星佳子氏が、加賀谷純一氏からお話を伺いました。

訪問看護とは

星氏 細木数子さん、瀬戸内寂聴さんが亡くなり、「死」ということ「生きる」ということをちょうど考えたタイミングでした。今日は訪問看護の話が聞けることを楽しみにしてきました。早速ですが、訪問看護とはということから、共有したいと思います。（※この記事は11月12日に取材したものです）

加賀谷氏 訪問看護は介護保険・医療保険のどちらでもご利用が可能です。65歳以上の方は介護保険が優先され、ケアマネがケアプランの中に訪問看護を追加することで開始できます。どちらの保険でも、主治医からの訪問看護指示書が必要になるので、まずは主治医へ相談することが一番ですが、介護認定を受けていない方は地域包括支援センター、介護認定を受けている方はケアマネに相談すると話しやすいかもしれません。訪問看護の仕事は、お薬の管理、体位変換や良肢位の保持、在宅酸素をされている方の入浴介助も私たちが行うことが多いです。介護としては、清拭、陰部洗浄、洗髪、手浴、足浴、医療的な処置としては、経管栄養の介助や、ストマのパウチ交換、喀痰の吸引、点滴の管理、ターミナルケア、疼痛緩和のケア、パリアティブケ

アなどです。体調の確認、バイタルサイン、聴診器をあてフィジカルな面を観察しますが、それだけでなく、本人・家族と対話し対話のなかから前回の訪問後変化がないかアセスメントすることが大事になります。状況にもよりますが、主治医と円滑に連携をとることで、できることの幅は広がります。

星氏 どのくらいの時間で入ることが多いですか。

加賀谷氏 介護保険で利用の方は20分未満、30分未満、60分未満、90分未満の4区分です。実際には30分未満で訪問を終えられる方は少数です。本人や家族の話を傾聴して時間が経過することもあります。訪問看護としては30分以上で訪問ができればケアの幅が広がるとしています。

早めの相談が健康寿命に影響する場合も

星氏 相談するタイミングについて教えてください。

加賀谷氏 導入の時期に迷うようであれば、早めに訪問看護に声をかけてほしいですね。困りごとが起きてからでは、できることが非常に限られてしまいます。1~2ヶ月に1回の診察では自

宅での様子が見えないと感じている医師も多いのではないかと思います。医療依存度が高い方、医療処置がある方、終末期の方だけではなく、糖尿病の方の栄養管理や心不全の方の体重管理などにも訪問看護を利用させていただきたいと感じます。細かな体調変化にも、早い段階で気づくことで、幅広く対応していけるとと思います。それが本人のためにもなりますし、いわゆる健康寿命をのばすことにもつながると思いますね。

星氏 そこにつながるということですね。確かに全国から比べると秋田県は健康寿命が短いですね。健康に暮らすことをもう少し意識してもらうことで、生活が安定するということがポイントになりますかね。話は変わりますが、在宅療養では多職種と連携をとることがすごく大事になってくると思いますが、その部分はどう感じますか。

加賀谷氏 そうですね、訪問介護が定期的に入っている方は多いと思いますので、ヘルパーがケアで不安を感じる時は、ケアマネに相談して訪問看護を打診することもありだと思います。また、福祉用具のみ利用されている方も結構いらっしゃいますが、訪問看護が週1回でも入ることで、使っている様子を確認することができます。不具合が

ある時は看護師からケアマネへ、ケアマネから福祉用具専門相談員へ連絡を取り、時間を合わせて一緒に訪問して、福祉用具の変更を話し合うこともあります。一人の方に多職種が関わることで気づくことの幅も広がると思います。多職種連携がめざすところのひとつですね。

星氏 医療の視点というところで大事なことですね。では、主治医とのやりとりはどのようにされていますか。

加賀谷氏 毎月報告書で本人の様子をお伝えしています。また、訪問して何か変だと思った時はすぐに電話で相談をしています。かかりつけが総合病院の場合でも、医療相談室や外来の看護師が窓口ということもありますが、その場で主治医に伝えてくれることが多いです。ご自宅に何時間も滞在することができませんし、次の訪問も数日後の場合が多いので、変化に気づいた時すぐに伝えることが大事ですね。私が訪問看護を始めた7年前に比べると、医師とのコミュニケーションはとても取りやすくなってきている印象です。

星氏 医師とうまく連絡がとれる体制があればいいですね。電話・FAX・訪問…それが今も変わらない方法ですね。私も昔は医師に連絡する時や連絡

を待っている間は、少し緊張したと思います。経験を重ね慣れてくるものではないでしょうか。

最期の大切な時間を過ごすお手伝いをしたい

星氏 ところで、終末期の方はどのくらい利用されていますか。

加賀谷氏 そうですね。私の所属する事業所ですと、年間10人程度の方が自宅で息を引き取られています。自宅でぎりぎりまで過ごし、最期に入院される方は、月に1~2人いらっしゃいます。看取りという言葉を知ると、何となく「大変そう」というイメージがあるのではないのでしょうか。難しいケースもあるかもしれませんが、事前に主治医から指示を受けて、関わる職種みんなで決めごとを共有することで、医師をはじめ一つの職種だけに負担が偏らないよう調整していくことが理想です。お気持ちがあっても敷居が高く感じている医師には、訪問看護をはじめ、在宅療養を支える職種みんなで協力していきたいと思っていますので、往診・訪問診療を広げていきませんかと伝えたいです。多くの方に制度も含めて訪問看護の活用についてもっと知っても

らいたいです。最期まで自宅で過ごしたいと思っている方は多いと思いますので、たとえ慢性疾患を抱えていても元気に過ごしていけるように、訪問看護がお手伝いできればと思います。

星氏 看護と真摯に向き合っているお姿から熱意が伝わってきました。私も初心に戻って頑張ろうと思いました。ところで加賀谷さんはなぜ訪問看護の道を選んだのですか。

加賀谷氏 きっかけになったことは祖母がんで苦しんでいる時に、入院するまでの間、祖父が人には真似できないくらい献身的に介護をしているのを見たことだと思います。看護師を目指すなら、いずれは訪問看護の道に進みたいと決めていました。看護師としては、医療と介護の接着剤になればいいと思いますので、何でも相談してほしいですね。現在、秋田市の訪問看護ステーションには男性の看護師がいませんが、当事業所は唯一男性の看護師が複数おりますので、特徴的かもしれません。訪問看護に携わる男性が増えたいと願います。

星氏 ぜひ秋田の訪問看護のパワーアップにご尽力いただければと思います。今日はありがとうございました。



感染対策を講じたうえでインタビューを実施しました

インタビューの感想

とても緊張しました。少しでも多くの方に訪問看護を知ってもらい、必要としている方に届けたいです。



加賀谷さんの想いをうかがい理解が深まりました。新たな気づきもあり、私自身の振り返りの機会となりました。



お知らせ

～資源調査へのご協力ありがとうございました～

施設区分	回答数(カ所)	総数(カ所)	回答率(%)
病院 診療所	156	257	60
歯科	50	165	30
薬局	125	178	70
訪問看護ステーション	21	28	75
介護(居宅系)	147	376	39
介護(施設系)	108	215	50
福祉用具 貸与 販売	9	26	35
計	616	1245	49.4

毎年、皆様からいただいた情報に基づきホームページを更新しております。地域の医療・介護資源の実態を適切に反映させるため、今後も情報提供のご協力をお願いいたします。



《連携センターから》
R4.1.22(土)に秋田市在宅医療・介護連携セミナーをオンラインで開催します。
1/7申込締め切り。申込用紙はホームページ「研修情報」からダウンロードできます。
連携センター (827-3636)



QRコードから申込みできます。

秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝祭日を除く)午前9時～午後5時
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)
TEL:018-827-3636 FAX:018-827-3614
E-mail renkei-center@acma.or.jp



編集後記

訪問看護の仕事が楽しいと、いきいきとお話される加賀谷さんがとてもきらきらして見え、私自身元気をもらいました。貴重なお話をありがとうございました。高橋

